



使徒行伝 下巻

18章23節—28章31節

荒井 献 著

(東京大学・恵泉女学園大学名誉教授)

【現代新約注解全書】

全3巻完結

3月25日発売

◆A5判・480頁・本体8925円

邦人の手になる学界最高水準の行伝注解、上巻刊行から39年ぶりに完結する。
下巻の巻末には、「補論 最後のパウロ」および「概説 使徒行伝」を収録する。



使徒行伝既刊

上巻

中巻

6章—18章22節

◆A5判・431頁・本体6000円

◆A5判・499頁・本体9000円

人が神にならないために

説教集

3月23日発売

荒井 献 著

著者が初めて公にした説教集。

◆四六判・221頁・本体2000円

「十字架につけられ給ひしままなるキリスト」
青野太潮 著 説教・講演集 十字架の神学の真髄。
◆四六判・246頁・本体2000円

右の2著はかつてコイノニア社から刊行されて多くの読者を得ましたが、版元が業務を閉じたため最近手に入りにくくなっていました。しかし依然として読者の要望が多いため、このたび小社から復刊の運びとなりました。

ジョナサン・エドワーズ選集1

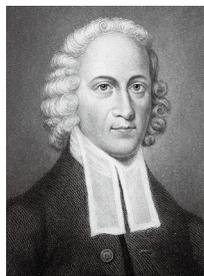
第2回配本

自由意志論

3月24日発売

柴田ひさ子訳／森本あんり監修 ◆A5判・440頁・本体7000円

エドワーズは18世紀当時のニューイングランドを席巻していた「弛緩した神学的風潮」を憂えた。人は自ら善を選ぶことができるのか。理性の独立を強調する啓蒙主義思潮を厳しく批判しながら、道德的主体としての自由と尊厳を擁護する——その狭く困難な論証は成功したのか。



「アメリカで最も重要な神学者」と称される18世紀の会衆派牧師エドワーズは、精力的な著述と説教、教育活動、大覚醒運動の指導等によって、以後のアメリカの宗教と思想に巨大な影響を及ぼした。本選集は、彼の主要著作を収め、ピューリタンの信仰の遺産を現代に継受するために、また

「キリスト教国アメリカ」の底流を理解する上でも必読である。

〔選集全7巻の内容予定〕

1. 自由意志論 (柴田ひさ子訳)
2. 自然美と類型論 (大西直樹訳)
3. 原罪論 (大久保正健訳)
4. 大覚醒と教会 (増井志津代訳)
5. 贖いの業の歴史
6. 神学倫理学論集 (須田拓訳)
7. 説教・書簡集 次回配本予定 (佐久間みかよ訳)

● 待望の増補新版

エレメンツ 増補改訂版

ジェレミー・ダフ著／浅野淳博訳 新約聖書ギリシャ語教本

過去1世紀以上にわたり「エレメンツ」と呼ばれ英語圏で親しまれてきた定番の入門書。本書は、2005年に完全改訂された第3版に基づいて2008年に日本語訳が刊行されたが、このほどさらなる使いやすさを追求した増補改訂版として登場。一般信徒、神学生、教職者にいたるまで幅広いニーズに応える、新約聖書ギリシャ語初級文法教本の決定版。

3月25日発売

◆B5判・264頁・本体4000円

ドンフリード、マーシャル著／山内二郎、辻学訳

パウロ小書簡の神学

叢書新約聖書神学

第一・第二テサロニケ書、フィリピ書、フィレモン書を取り上げ、執筆状況を再構成し、具体的な状況下でパウロが何を伝えようとしたかを考察、その現代的意義への問いに及ぶ。

◆四六判・予価4000円

川端純四郎著

教会と戦争

川端純四郎コレクション（仮題）

2013年に逝去した著者の遺稿から、戦時下の牧師家庭に育った戦争体験、教会の戦争責任、社会への証し、礼拝のあり方など、信仰のエッセンスを表す単行本未収録28編を集成。

◆四六判・予価2500円

ユルゲン・モルトマン著／福嶋揚訳

希望の倫理

64年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に、これまでの神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。いま真の希望のありかを指し示す21世紀の倫理。

◆四六判・予価4000円

【重版／復刊】

人が孤独になるとき

説教・講演・奨励集

並木浩一著

◆四六判・本体1900円

● 2月に出た本

雪に閉ざされて

冬の田園詩

ジョン・グリーンリーフ・ホイッティア 根本泉訳



アメリカ国民詩人の代表作。著者は奴隷解放運動に投じたクエーカー派詩人。本作は内村鑑三、新渡戸稲造らの愛唱詩としても有名。初の邦訳。

◆四六判・本体1700円

私のごすべるくろにくる

沢知恵著



日韓米のはざまを生き、あらゆる境界をまたぎ越して愛をうたう歌手。沢知恵が、自らの聴いてきた歌、歌ってきた大切な歌について、時代と自分史を重ねながら綴った異色の音楽年代史。

◆B6変・本体1500円

インクルーシブ神学への道

鈴木文治著 開かれた教会のために

障害児教育に長年携わった教師として、また牧師として、インクルーシブに取り組んできた著者が綴る実践と思想。

◆四六判・本体2000円

福音と世界

◆税込635円

3月号―特集 聖書と暴力、そして平和

寄稿者・石川立、矢口洋生、渡邊さゆり、志村真、河野克也、松浦薫、内田樹、川本隆史、佐藤優、月本昭男、辻学ほか

●荒井猷先生の使徒行伝注解が完結します。下巻の巻末には一昨年の小社創業50周年記念講演会で語られた「最後のパウロ」、および緒論となる「概説使徒行伝」を収めます。学界最高水準の行伝注解にぜひご注目下さい。

●キリスト教出版界の先輩である市川邦雄さんは、YMCA退職後にコイノニア社を創業し、一人出版社としての特色を生かした名著をたくさん出してこられました。諸事情で社を閉じられました。同社から出されていた荒井先生と青野先生の説教・講演集はかねてより読者の要望が多かったので、この機会に市川さんから譲り受け、桂川潤さんの装丁をそのままに小社から復刊することになりました。

●『福音と世界』4月号に「聖書とわたし」を寄稿された女優の木内みどりさんが「ヴァギナ・モノローグ」という朗読劇に出演すると聞いて観に行ってきました。これは、様々な女性たちが実際のインタビューに答えて自らの性器について語った話を構成した作品です。とうてい一言で要約できる内容ではありませんが、自ら語ることはおろか、見たり触ったりすることすら抑

圧されてきた女性器の物語を通して「女の一生」、その悲しみや喜びが爆発するような迫力ある舞台でした。いまだき何の抑圧もタブーもないと思われるかもしれません。しかし共演者の一人北原みのりさんは、女性器をかたどった「わいせつ物」を自らのお店に展示したかどで一昨年逮捕された方です。Iコリン14・34等が書かれた昔から、沈黙を強いる種々の力は続いています。

●3月26、27の両日、ICUでジョンサン・エドワーズ国際学会が開かれます。日本で開催される初めての学会に間に合わせるべくエドワーズ選集第2回配本の最終作業中。リンカンは南北戦争終結後、我々はこの自由意志論を読むべしと言ったそうです。

N・T・ライト『新約聖書と神の民』出版記念講演会のご案内

- ・日時 4月9日(土) 午後1時～3時
- ・会場 日本聖書神学校2002号室
- ・講師 山口希生氏(同書訳者)
- ・主題 パウロの(ヘストリー神学)のクライマックス
- ・参加費 無料。申し込み 不要
- ・主催 N・T・ライト読書会+小社

福音と世界

2016年

4

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8460円

特集・聖書の翻訳

- 聖書を翻訳する……………大野惠正
- 『聖書新共同訳』(新約聖書)をめぐって……………川島貞雄
- 説教者のパースペクティブにおける聖書翻訳論……………加藤常昭
- イエスは水の上を歩いたか……………山浦玄嗣
- 近年の日本語訳新約聖書について……………前川裕
- 聖書の翻訳理論と新翻訳事業……………島先克臣

- 書評・若松英輔「イエス伝」……………山本芳久
- 同性愛をめぐるアングリカン・コミュニオン内の対立……………西原廉太
- 教会における同性愛嫌悪——韓国的事例から……………長尾有起

【連載より】

- ◆新約釈義 第一テモテ書 2……………辻学
- ◆聖書素読 4……………金必順
- ◆リレーエッセイ・聖書とわたし 4……………木内みどり
- ◆宣教学・事始め 12(最終回)……………来住英俊
- ◆レヴィナスの時間論 13……………内田樹
- ◆現代日本の福音 18……………高橋優子
- ◆南島キリスト教史入門 18……………一色哲
- ◆ことばの履歴書 25……………佐藤優